

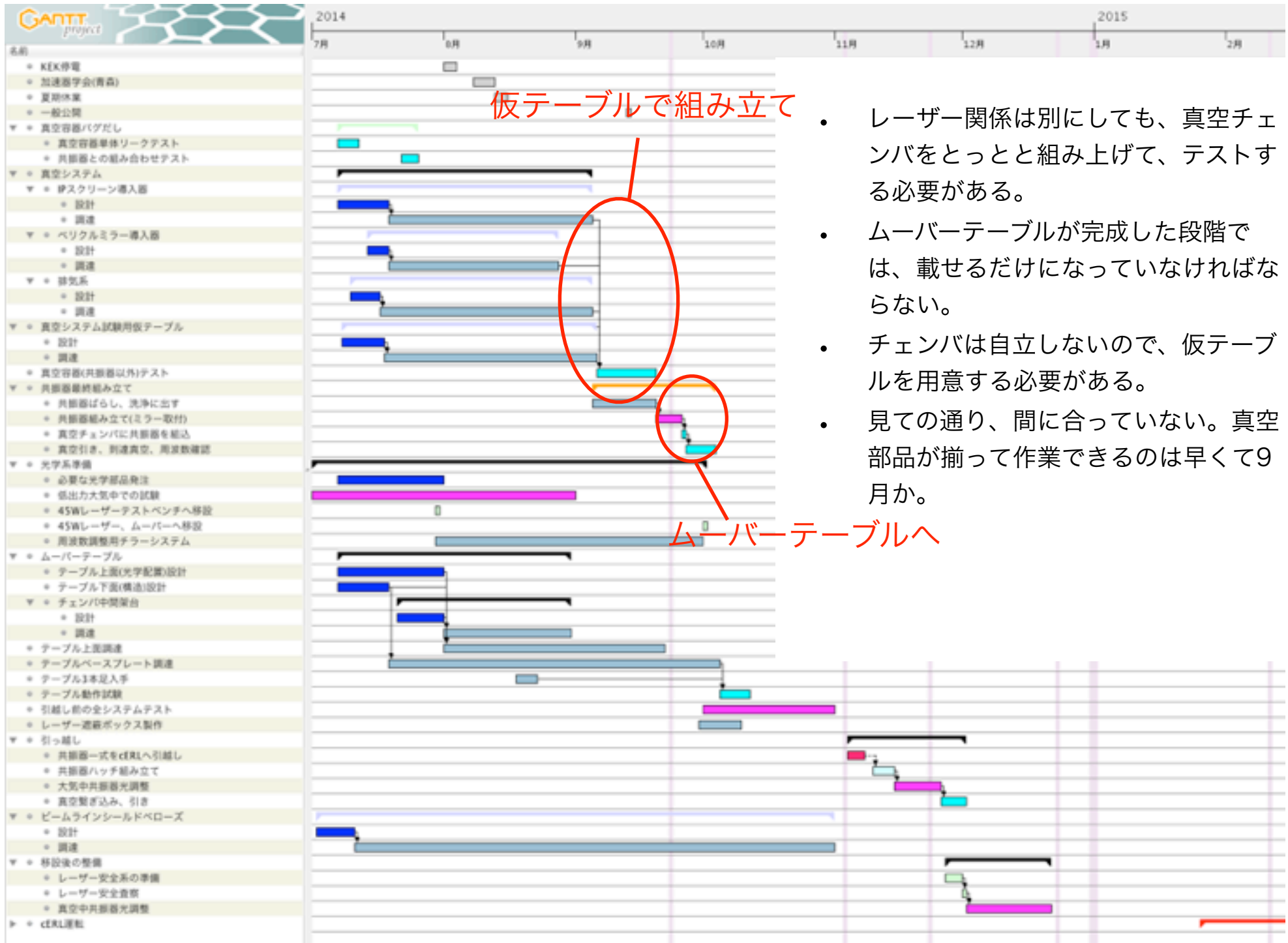
# LCSS共振器チェンバの組み立て手順

2014.7.8

本田洋介

- 真空排気系は、テーブルの下に組み入れたところに収める予定
- 本番のムーバーテーブルで組み上げるのは困難(空間的にも、時間的にも)
- 仮テーブルを用意して作業するとした手順の案

# スケジュール概要



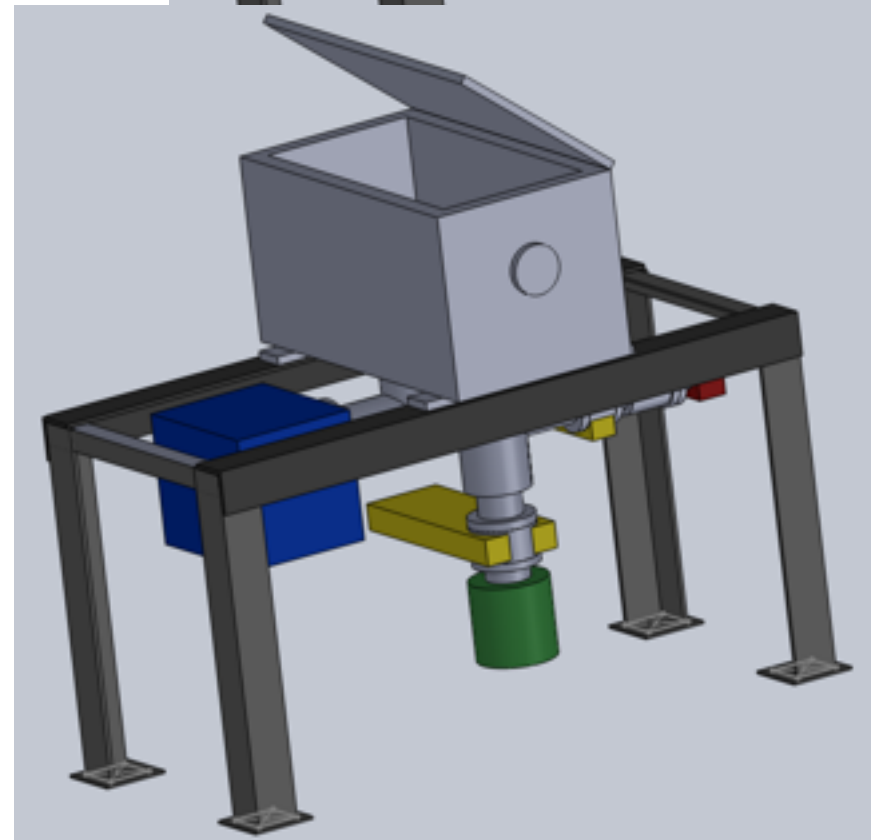
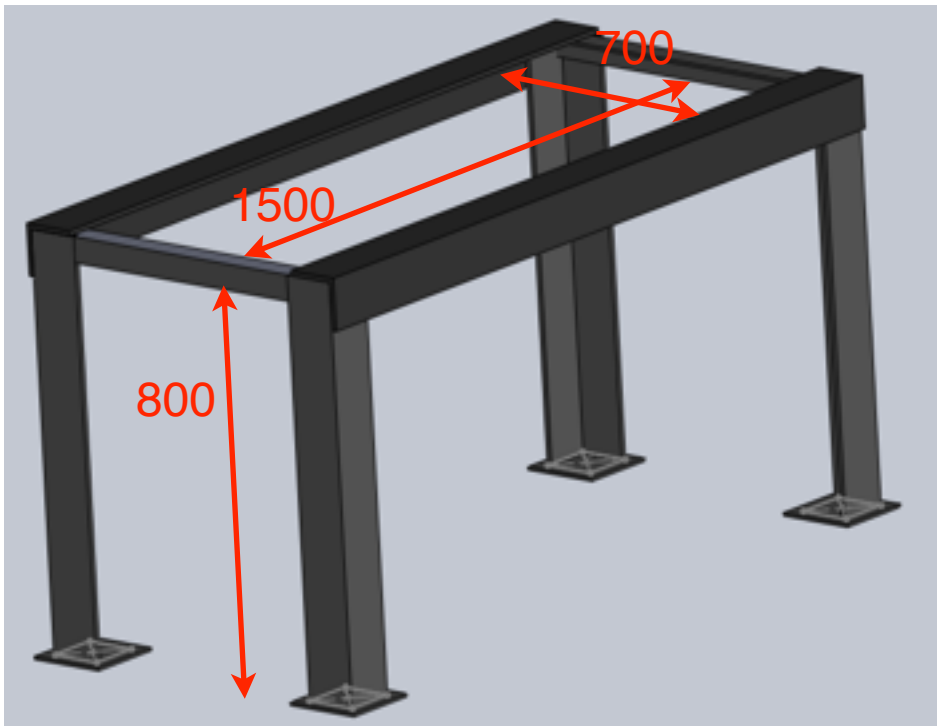
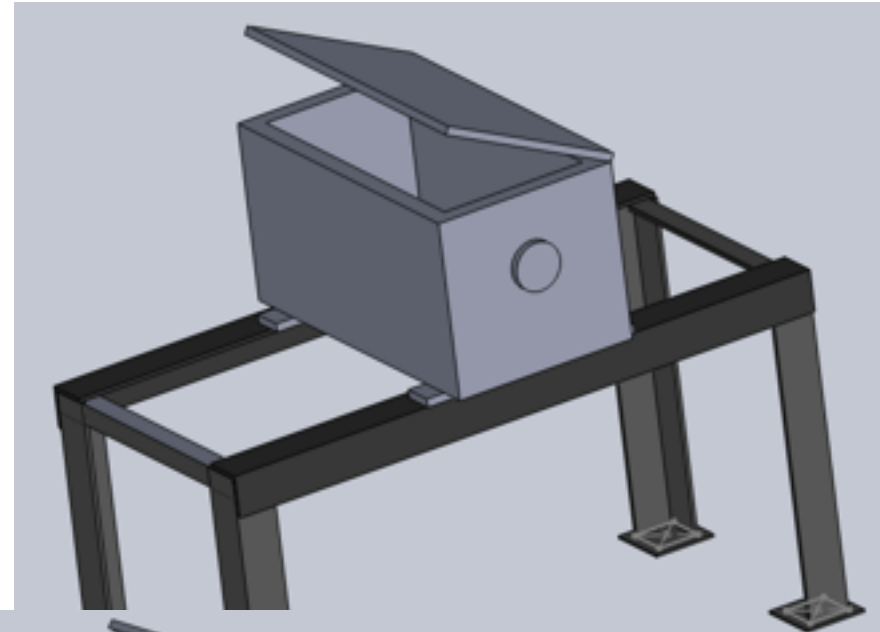
仮テーブルで組み立て

ムーバーテーブルへ

- レーザー関係は別にしても、真空チェンバをとっとと組み上げて、テストする必要がある。
- ムーバーテーブルが完成した段階では、載せるだけになっていなければならない。
- チェンバは自立しないので、仮テーブルを用意する必要がある。
- 見ての通り、間に合っていない。真空部品が揃って作業できるのは早くて9月か。

# 仮テーブル

- チェンバの組み上げでは、下面のポートにアクセスする必要がある。
- 大きく空間(700 x1500)が空いたフレームとする。
- 完成したらそのままクレーンで運び出せるように。
- イオンポンプとか、重いものをジャッキで支えながら取り付けていく。
- この組み上げ作業は、天井が開けられるハットで行う。
- ATF入ったところのビニールハットが候補(レーザーは使わないので透明ハットで良からう。)
- 9月前半あたり



# チェンバの設置

- ムーバーテーブルが完成した時点で、真空装置として完成した状態で、移動。(9/20あたり?)
- その後、共振器の組み込み、フルパワーでの性能試験、とつづく
- 移動先は、クリーンブース環境、かつ、レーザー室、かつ、天井が開けられる。でなければならない。(ATF中の島コンプトンハットが候補)
- ムーバーテーブルの組み立ては、その場所で進めておくのが良さそう。

